

## 平成 28 年度 第 4 回 都市計画サロン 報告

日時：平成 28 年 12 月 28 日（水）

演題：「熊本市新町古町のまちづくりと熊本地震からの復興計画」

講師：富士川一裕 氏

熊本まちなみトラスト 事務局長

### 講演内容：

30 年前から熊本を本拠地として都市計画コンサルタント業務にあたってきており、今日はこれまでに深く携わってきた熊本市新町古町地区について具体的にお話ししていきたい。

熊本地震では前震が震度 6 弱、本震が 6 強の激震を体験した。震災直後に被害状況を自転車で見て廻ったところ、新町古町にある古い町屋や近代建築は屋根瓦の崩落や外壁のヒビ割れと崩落が多く見受けられた。また、商店街の各店舗は営業再開の見通しがたたないまま片付けに追われていた。本震から 4 日目に熊本まちなみトラストの定例会があったため今後のことを話し合ったものの「復旧しても先が見えない」という心理状態であったが、11 日目には「復興プロジェクト」を立ち上げ、目標を持って復興していこうと皆で心を決めた。6 月になると営業を再開するお店が増え、「復興プロジェクト」の活動も寄付集め、瓦礫処理、梅雨対策としての防水シート張りなど活発になり、皆が復興へ向けて突き進み出した。また、専門家を招いて建物の修復策の検討が行われたり、復興に向けたシンポジウムが開催されるなど、専門家が多くの訪れるようになっていった。7 月になると商売を営む町屋の所有者は「グループ補助金」に申請して修復するための方法を考え始めた。このように、震災から 3 か月は個々ができることから動き出すとともに地元の協同体制が整い始め、また外部の専門家による協力が入るなど、復興に向けて次第に道が開かれてきたように思う。

専門家や団体の動きとしては、まず ICOMOS 国内委員会が「平成 28 年熊本地震被災歴史的建造物保全フォーラム：文化遺産の復興と継承」というフォーラムを熊本で開催し、歴史的建物の修理復興について専門家と被災した地域住民との間で意見交換が行われた。また、文化財ドクターによる一次調査の結果報告会が「建築文化遺産の復興に向けて」と題して熊本で行われ、中越地震での経

験にも学びながら、文化財をいかに救うか専門家による提言がなされた。地元の動きとしては、11 月 12 日に新町古町 25 名と川尻 9 名の計 34 名によって「被災文化遺産所有者等連絡協議会」が設立され、歴史的建造物を修復して維持していくための横の繋がり体制が整った。

将来に向けた復興ビジョンも協議が進んでいる。新町古町地区は 27 年前からまちづくりに取り組んでおり、これまでの実績と地域の理解をもとに復興計画を考えている。熊本城下町新町古町の特徴は、「城下町創建時の遺構」「細川藩の時代に醸成された城下町文化」「明治維新とその後の近代化遺産」という 3 つの層を今にとどめる街であることから、歴史的建造物文化遺産の多様性を重視することを念頭に据え、復興のコンセプトを「各時代の層を今にとどめるとともに新しい建物と古い建物が併存し、古い建物を尊重する街（市街地のノーマライゼーション）」とすることとした。そして、熊本城下町新町古町復興ビジョンの事業構想を、①歴史的建造物の復旧復興 ②大工・職人の定着による日常的な維持管理 ③防災広場・防災公園の整備 ④熊本城を包囲する文化的イベントの活性化、の 4 点を軸として進めることとした。

現在は、とりわけ歴史的建造物の取り壊しにストップをかけることに力を注いでおり、特に景観形成建造物が残るように各所有者と話し合いを続けている。「城は残ったが城下町は消滅した」ということにならないよう、城下町全体として歴史的環境が残っている状況を目指し、日々模索と実践を積み重ねている。

### 意見交換：

意見交換では、歴史的建物や歴史的環境を保存・維持する努力と、その観光への寄与についてご教示を得るとともに、歴史的建物が連坦せず点状に所在する歴史地区の保存方法が課題であることが示唆された。（文責：九州大学 箕浦永子）

